

SDGsを意識した専攻班活動への取り組み

大野農業高等学校

大野農業高校では、生徒が興味関心のある分野を専門的に研究・学習する専攻班活動があり、これらの活動にもSDGsの意識が取り入れられています。現在15の専攻班があり、農業クラブでは「高校生が考える社会課題解決のためのSDGsアクションアイデアコンテスト」にエントリーし、一次審査に進んでいます。テーマは「私たちがつくる私たちの未来〜SDGsの意識を広げよう〜」とし、専攻班に働きかけて地域を動かし、SDGs意識の広がりに向けたアクションを起こしています。専攻班活動では、1年間の取り組みをまとめて発表する実績発表大会が毎年開催されます。

令和3年度の最優秀班の活動内容を紹介します。

分野I類 農業科・農業科学科 水稻班 発表テーマ「フードロスを減らし 安全・安心・良食味を！」

発表者 農業科3年 小林 真治
北海道水田発祥の地、北斗市の農業高校に通う私たちは、「すべての人に安全・安心・良食味を！」とし、今年で4

年目の活動をしています。昨年からドローンを導入し、作業時間を短くし、安価に良食味米の生産を行い、より多くの人への安全な良食味米の提供を目指し活動をしました。

① ドローン防除を委託し経費削減

今年、ドローンの購入経費の負担を減らすために、ドローンの防除を業者に委託し、ドローン購入による減価償却費を削減することとしました。ドローンによる防除の委託散布料は1ヘクタール当たり、1万3200円で、全道平均の圃場面積では24万3144円となりました。通常農家が使用する乗用ブームスプレイヤーの減価償却は54万4300円となるので、委託散布の経費と比較すると、委託散布の経費が30万1156円安くなっています。つまり、経費の減少と、労働時間の短縮ができることとなります。そして、削減した労働時間で付加価値を付けた米の生産や、食味の向上を行い、低価格で販売するこ



ドローン防除を委託しました

とが可能と考えられます。

② 生産者からのフードロス削減

食料を生産している私たちにできる食料ロスを減らす活動として、農林水産省の取り組みである食品ロス削減国民運動に参加することとしました。私たちは、お米を生産し、さまざまな販売会で精米して販売しています。そこで何かできることはないかと考え、年月旬表示を導入しました。旬表示により食品ロス削減の効果が期待され、この表示を4月から導入するとともに、旬表示についてのチラシなどを配り、消費者への広報活動を行いました。



精米の年月旬表示を始めました

③ 安全・安心のためのJGAP認証

お米を安心・安全と一緒に販売したいとJGAPの認証を受けて4年になりました。今年も維持審査を9月に受けました。今まで試験的に実施していた「はさ掛け米」の生産工程も認証され、正式にJGAP認証農場で生産されたはさ掛け米とすることができるようになりました。

まとめ

①ドローン防除を委託し経費削減では、昨年に比べて大幅に削減ができました。今年、経費の計算上ですが、これから

は実際にはさ掛け米などのおいしいお米を生産し、一人でも多くの人に良食味米を安価に届けたいと思います。

②生産者からのフードロス削減では4月から年月旬表示を行うことができました。アンケートなどから消費者はフードロスなどに興味を持っていることがわかりました。食料を生産する私たちがからPRも大切にしていきたいと思っています。そして、フードロスを減らし、一人でも多くの人に良食味米を安価に届けたいと思っています。

③安全・安心のためのJGAP認証の維持ができました。

今年で認証を受けて4年が経つJGAP。段々と農場全体に浸透してきています。おいしさとともに向上した安全・安心を届けられるようになりました。私たち水稻班は、昨年度は水稻栽培からSDGsを、今年、は水稻栽培とともにフードロス削減に取り組んできました。私たちの未来が輝く稲穂のように明るい未来になるよう、生産だけでなくさまざまな活動に取り組んでいきたいと考えています。



JGAP認証を受けています

(北海道大野農業高等学校 市橋・大森)